

## 2 月 3 日 (木曜日)

## いろいろ しました

【参加者:池本幸、越智宏、越智美、木谷、芝田香、芝田美、鈴木哲、鈴木明、中

9 名】

### 巣箱の取り付け



芝田さんが巣箱を作って持ってきてくれたので早速カブトムシの森にあるコナラの木に取り付けた。鳥が来てくれるのを待っていよう。

### 看板の補強



「くぬぎの森の小径」の看板がぐらぐらしていたので杭を打ち込んで補強した。



最も寒い時期に薫り高く咲く蠟梅。花のテラスで蟻細工のような淡い黄色の花を咲かせているのを見つけた。

### 丸太運び



モリメイトフィールド奥の杉林に、間伐して皮をむき、置いてあった丸太を 15 本運び出した。長さ 4 メートルほどあり、重いものは二人で肩に担いで運んだ。

### 枯れマツの除伐



駐車場から 1 番東屋に向かう園路周辺にある枯れマツを除伐した。東屋近くの枯れマツ 3 本はロープをかけ、倒す方向を定め、慎重に伐倒した。全部で 9 本除伐。

## 2 月 10 日 (木曜日) 少し入ったところに目立つ枯れマツ

【参加者:池本幸、越智宏、越智美、梶川、木谷、芝田香、芝田美、杉、鈴木哲、鈴木明、中 計 11 名】

1 番東屋からサギソウ園に続く園路沿いを枯れマツを探しながら歩いた。園路から少し入ったところにマツが 2~3 本固まって枯れているのが何か所かあった。周辺の笹を刈払機や手鎌で刈り、絡み合っている茨をはさみで切りながらの作業であった。16 本除伐。

伐った木は伊賀焼の窯元に持っていき使ってもらえることになる。



オミクロン株による感染が拡大しているため、1 週間早くモリメイト会議を開き、「シイタケの菌打ち体験」を実施するかどうか話しあった結果、中止することにした。

## 2月17日(木曜日)サブコテージ前のマツの大木枯れる

【参加者:池本幸、越智宏、越智美、梶川、木谷、芝田香、杉、鈴木哲、鈴木明、中

10名】



最高気温6度。春とは名ばかりの寒い1日であった。

午前中はサギソウ園の南側の枯れマツ8本を除伐。

午後からはサブコテージの前の道を隔てたところにある枯れマツを除伐した。以前から枯れ始めていることに気づき、まだ大丈夫、まだ大丈夫と伐るのをためらってきたマツの大木である。しかし、とうとう葉は上から下まで茶色く枯れてしまったため、今日伐ることにした。

枝の付き方、風の向き、倒れる場所などをみんなで確認し、伐る方向を定めて受け口を入れ、反対から追口を切り進め慎重に伐っていった。枯れマツの大木は音を立てて倒れ大地に叩きつけられた。命を終え土にかえる瞬間である。風の向きが変わったこともあり考えていた方向とは少し違うところに倒れたが、手際よく枝や幹の処理をして無事終わることができた。

年輪を数えてみると樹齢60年ぐらいであった。

## 2月24日(木曜日)モリメイトでシイタケの菌打ちをする

【参加者:池本幸、越智宏、越智美、梶川、芝田香、芝田美、杉、鈴木哲、鈴木明、中

10名】

コロナ感染拡大により3月13日に延期していた「シイタケの菌打ち体験」であるが、さらに感染者が増えてきたため今年も中止せざるを得なくなった。そこで、モリメイトだけで「菌打ち」を行った。

直径10cm位、長さ1mの原木にドリルで穴をあけ、25個ぐらいの菌コマを打っていき、60本ぐらいのホダ木ができた。途中、かわいい女の子が木槌の音に誘われやってきて、屋外でお母さんといっしょに菌打ちを手伝ってくれた。その後、ホダ木を整備しておいたシイタケランドに運んだ。

モリメイトが打ったホダ木から出てきたシイタケは干しシイタケにして保存しておき、毎回「菌打ち体験」の時、豚汁に入れてふるまっている。

来年の2月にはコロナが収束し参加者と一緒このイベントを楽しみたい。

